

今日の内容は「繋がりを広げる」

非物理の存在たちと友人、知人の輪を広げて繋がりを持て多様化していく内容を行っていくわよ。

「繋がりを作り出す」だけって聞くとあまり凄そうに思えないし、人によってはピンとこない内容かも知れど、これの凄さをわかりやすく理解するために、君の住むこの世界を例に話をしていくわね。

君の住む世界では「人脈」というのは大きな力を持つわ。

例えば知り合いに権力のある人物がいれば、その庇護や利益を享受することができるし。知り合いに経営者がいれば、うまくすればコネで入社できるかもしれない。知り合いに政治家がいればそのコネで色々と有利な便宜をはかってもらえるかもしれない。

これらの事例は内容的にはアレだけど、効果の意味合い的にはわかりやすいわね。

経営者が「私が今こうしてここにいるのも人のご縁のおかげです」と口にしたり、芸能人が「私がこうして芸能活動を続けられるのも皆さまのおかげです」と口にするのも、ある意味では全くその通りで、人の繋がりや強さを示しているわけね。

繋がりというのは単なるコネだけの話じゃなくて、人が人を呼び新しい繋がりや生まれることでチャンスが舞い込んだり、突破口がひらいたり、自分の知らない新情報や別の選択肢、新たな可能性が呼び込まれたりすることも多いわ。繋がりがあることでバックが生まれて脅威から守られたり、名声を利用することもできる。

繋がりや生まれる事で、一人ではどうにもならなかった事態を開くことができるわけね。

「繋がり」があるというのは単なるコネの話だけじゃなくて「繋がっている」「知り合いである」ことそれ自体に意味があり、強い力になるわ。その逆に、たった一人きりで繋がりがない状態だとトラブルが起きても他者を頼れず助けを得ることができないし、面倒な事態を一人で解決しなければならないし。スキルや知識の習得も全て独力になるし、チャンスも可能性も全て自分で探して、見つけて、切り開かなければならなくなる。繋がりがある人に比べて驚くほど不利になるわけね。

もしも繋がりや無く、天涯孤独で身寄りがなくてコネもなくて後ろ盾もなかったら。

そんな状態だと物理だけじゃなく、精神的にもかなりキツくなるわよね。

それに対して繋がりがあある人なら、仮に何かがあってもいざとなれば伝手^{つて}を頼ればいいから精神的にも追い詰められずに心の安定感や安心感が違うわ。

つまり、繋がりというのはそれを使用しなくても、繋がりがああるという事実だけで状況を有利にすることができるわけね。

前置きが長くなっちゃったけど。

こうした事例を見ると繋がりはかなり美味しい要素なわけよね。

でも考えてみて？

今話した「人の繋がり」ってのは、

無限に存在する多次元世界の中の1つにすぎない宇宙の中の、1つの星雲の片隅にある辺境^{せいき}の星系。その星の1つに住んでる「人類種」という、ごくごく一部の限定された種族の枠組みでの話よね？

そんな狭い枠組みの中ですら「繋がり」はここまでの力を発揮するワケ。

ってことは…そうした世界のさらに上位にある世界や複数の世界を跨いで存在している高度な存在。

神をも超えた非物理の存在やガイドたちのレベルで繋がりを作り出せたら、もっとすごくて楽しいことになりそうよね？

ってことで！

今回は今話した概念を利用して非物理の存在たちとの繋がりを広げて、増やして、繋がり^ワのネットワークを大きくしていくわよ。

今回の内容は特にわかりやすく提示できるメリットはない技法だけど「高度な存在たちの広い繋がり」があるだけでかなり違うからね。

人によっては凄くピンと来て美味しい内容に感じるかもだね。

今作の習得にあたっての前提条件はないわ。

あえて言うなら魔法使い入門シーズン^{ワン}1の第4巻「ガイド」の内容を学んでいると交流が少し捗るかもだけど、基本的にはこの巻単体で身につけることができる内容だから安心してね。

注意点としては、このシリーズは非物理の存在と一緒にワークを行う内容だから、ガイドやタルパ、イマジナリーフレンドやハイヤーセルフ、守護天使などのような非物理の存在との関係や結びつきを持っている人が対象のワークになるから、そこだけは注意してね。